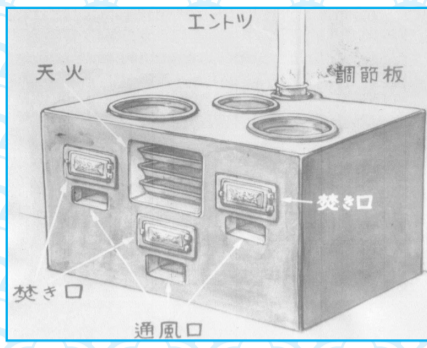


戦後の生活改善と改良カマド

調理器具といえば、現在は、ほとんどの家で、ガスコンロやクッキングヒーター、それに、ガスや電気の炊飯器などを使っていることでしょう。

ガスや電気の調理器具が普及する前に、一般的に使われていたのは、マキなどを燃料とする「カマド」でした。

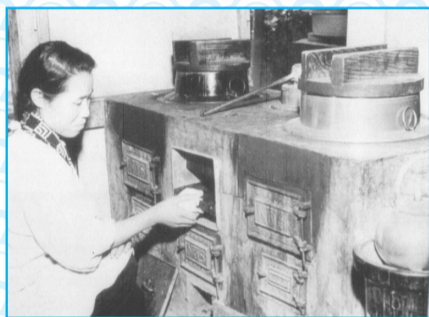


戦争が終わった昭和20年代の前半に、現在の日野市百草で、農家の主婦だった守屋こうさんは、このカマドをもっと使いやすいものに改良することを考えました。

今までのカマドは、煙突が無く、熱効率も悪いので、家の中が煙く、使いにくいものでした。こうさんは、夫の一作さんに協力してもらいながら、燃料のマキをなるべく節約して調理が出来るように、焚口にロストルや通風口をつけ、煙突で煙を外へ出すように工夫しました。ロストルは、鉄製のすのこで、この上でマキを燃やすと、下に灰が落ち、空気の循環がよくなるので、効率よくマキを燃やすこ

とが出来たのです。さらに、炊飯をしながら、余熱で湯をわかしたり、オーブンの機能もつけて、クッキーなども焼く事が出来るすぐれものでした。燃料のマキは、それまでの3分の1以下で済み、また、煉瓦とセメントを使用して、安い費用で作れるものだったので、近所でも評判になり、見物に来る人や、作り方を教えて欲しいという人がたくさん来るようになりました。守屋さんの家では、このカマドを「守屋式改良カマド」と名付け、一作さんは、誰にでも作れるように設計図を作り、見学に来た人たちに配ってあげたそうです。見学に来る人は、多摩地域だけでなく、全国各地におよび、昭和24年には、当時の占領軍指令官だったリッジウェイ大將夫妻も見学に訪れました。1800人以上の人が守屋家を訪れ、「守屋式改良カマド」は各地で普及したそうです。こうさんは、カマドだけでなく、

昭和23年から3年計画で住居の改善に取り組み、電力を使ったポンプで井戸水を汲み上げたり、暗い土間に大きな窓を作って採光をよくしたりと、農作業をしなから効率よく家事が出来るように、台所や居間の使い方工夫しました。このような取り組みが、「生活改善」といいますが、



昔の生活道具などを展示している「暮らしの道具今・昔」4月15日(日)まで開催中。

郷土資料館

春休み・小学生集まれ！

わくわく学習術に参加しよう

公民館講座

みなさんが新しい学年に向かつてわくわく期待しながら過ごす春休みが近づいてきました。小学生のみなさんに大人気の中央公民館青少年事業「春休み・小学生集まれ！わくわく学習術」を来る3月27日(火)と28日(水)の2日間にわたって開催します。

この講座は、ふだん学校の授業ではあまり体験できないような学習を春休みに体験してもらうこと、学年を超えた異年齢との交流を図ることを目的として行っているものです。

今回は電気について学び、世界最高水準にある日本の最先端科学技術で作られた電気自動車に触れ、専門の先生にやさしく説明してもらいます。またふだん何気なく食べている生活に密着した食品(カップめん)がどのように作られるか等を体験してもらいます。

まず、1日目の午前は「ソーラーカーを作ってみよう」、午後は「電気の流れを知ろう」です。2日目の午前は「自分だけのカップめんを作ってみよう」、



午後は「電気自動車に触れてみよう」です。

参加対象は、小学3年生から6年生までです。

会場は、27日が福祉支援センター(多摩都市モノレール高幡不動駅北側出口徒歩1分)、28日が中央公民館高幡台分室です。開催時間は午前10時から正午まで、午後は1時30分から3時30分までです。

毎年この時期に開催される講座で申し込みは中央公民館高幡台分室で3月15日から先着順に受け付けします。定員は20人です。ぜひご参加ください。

【問合せ先】

中央公民館高幡台分室
電話 592-10864

(中央公民館)

図書館の「点字授業」

図書館では、出張講座「点字授業」を実施しています。

依頼のあった小学校のクラスに図書館の職員が出向いて、点字の授業を行います。昨年度は、6校、20クラスを訪問しました。今年度も、7校から依頼があり、18クラスへ行きました。

各学校とも1クラス2時間分の時間を割いていただき、前半の1時間は、視覚障害者についての話や視覚障害者向けに作られた点字図書等の資料の紹介、及び点字の簡単な規則や点字による文章の書き方の説明などを行っていただきます。2時間目は、子ども達一人ひとりが、実際に点字器(点字を書く道具)を使って簡単な文章を書いていきます。

2時間という長い時間にもかかわらず、どの小学校へ行っても子ども達が真剣な眼差しで聞いてくれるので、職員もやりがいを感じます。当初は、子ども達が点字などに興味を示さないのではないかと不安もありましたが、実際に点字器を使って文章を書いていく子ども達の真剣な様子を見ると、そんな不安もまったくの危

惧でした。与えられた課題に対して、われ先に作成して添削してもらう子、隣の席の子と相談しながら点字器と格闘している子などさまざまですが、子ども達からは、「点字を覚えたり書くことは、とてもたいへんだとわかりました。これからは、目の不自由な人を見かけて困っていたら、声をかけてあげようと思います。」とか「点字の授業を体験して、自分で点字で名前を書いたときは、おもしろくてはまってしまいました。点字について、もっと知りたいと思いました。」などの感想をいただきました。

この点字の授業を通して、視覚障害者にとって大切な文字である「点字」への理解を深めてもらい、読書の解を広めてもらい、読書のバリアフリーの意識を育てることに、一人でも多くの子ども達が、障害者への理解を深めてもらえればと願っています。



(中央図書館)